

4つの県有スポーツ施設の整備の方向性等について

令和7年(2025年)9月22日
熊本県

- 令和7年(2025年)9月1日に、公民連携によるスポーツ施設整備に関する検討会議(座長:澤田道夫熊本県立大学総合管理学部教授)から、4つの県有スポーツ施設の整備の方向性等に関する提言をいただいた。
- この提言を踏まえ、県としては、官民共創による県有スポーツ施設の整備により、県民みんなが笑顔になり、持続的で活力あふれる熊本の未来、スポーツを通じた『くまもと新時代』の実現を目指す。

4つの県有スポーツ施設

整備の方向性

当面の対応

熊本県立
総合体育館

現地再整備

R8~

- ✓ 最優先で整備を進めるため、来年度、基本計画策定等に取り組む。
- ✓ 民間事業者へのサウンディング調査等を踏まえ、整備手法やPFI法に基づく実施方針等の検討、事業者公募の実施。

藤崎台県営
野球場

移転再整備

R8~

- ✓ 熊本県立総合体育館の整備から間を置かずに取り組む。
- ✓ 移転先選定に向けた条件等を整理し、公募の実施。
- ✓ 民間事業者へのサウンディング調査等を踏まえ、整備手法やPFI法に基づく実施方針等の検討、事業者公募の実施。
- ✓ 現球場の取扱いに関する検討・調整。

熊本武道館

改修
(空調設備等の整備)

R7~

- ✓ 既に空調設備等の整備に向けた現地調査や検討に着手。
- ✓ 設計・工事等を早急に実施。

県民総合運動公園
陸上競技場

現状維持
(交通アクセスの改善)

- ✓ 大会開催時における周辺の渋滞対策として、ハード(駐車場整備)とソフト(パーク&バスライドの実施等)両面からの総合的な改善策の検討・実施。

【整備を進めていくに当たっての主な検討課題】

①施設の適正な規模・機能の精査、事業費の算定

- 資材価格等が高騰する中、県費負担を軽減しつつ施設整備を進めるため、求められるニーズと収益性等を踏まえた適正な規模・機能を精査し、整備費・維持管理運営費等の事業費の算定を進める。

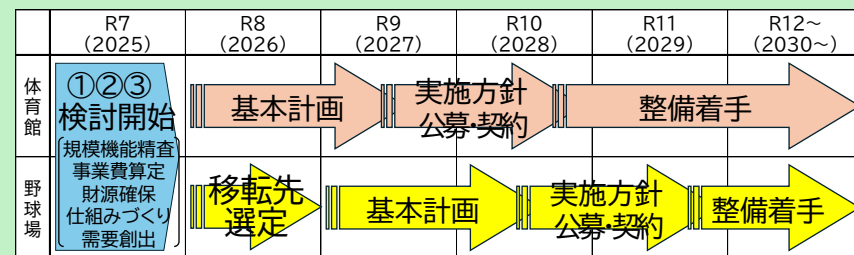
②財源の確保、地元経済界・県民等が施設を支える仕組みづくり

- 財源の確保や賑わい創出のための民間投資の促進、市町村との共創に加え、県民施設として、寄附など、広く県民等が施設を支える仕組みづくりを進める。

③交流人口の拡大や地域・経済活性化を図るための施設の需要創出

- アマチュアや学生等の一般利用に加え、国際スポーツ大会・プロスポーツ興行の更なる振興やスポーツ以外のイベントなど、施設の需要創出を図り、交流人口拡大や地域・経済活性化を通じ「くまもと新時代を創造する拠点」を目指す。

【スケジュール(イメージ)】



- ✓ 熊本武道館
→ 早急に取組みを進める。
- ✓ 陸上競技場
→ 当面、駐車場整備やパークアンドライドなどのハード・ソフト両面での対策を実施し、交通アクセスの改善を進める。